

平成19年度調査・研究事業

産学連携製造中核人材育成事業

【概要】

今後の東北地域のものづくりの中核となる「技術・研究開発人材」、「製造現場マネジメント人材」を地域の中で育成するため、大学院におけるものづくり教育コースの設置、大手企業の研修施設の開放、地域企業の協働研修の実施を行うこととし、そのためのカリキュラム・テキスト、実習機器等の開発を行うものである。

【対象市町村、モデル地域等】

北上川流域および山形・米沢地域

【調査年度】

平成17年度～平成19年度

【提案・要請者】

【提言内容・その後の活動等】

岩手大学においては、平成17年度に大学院「金型・鋳造工学専攻」を設置するための1年次用のカリキュラムの開発を行った。これに基づき平成18年4月から「大学院工学研究科金型・鋳造工学専攻」が開設され、金型コース8名（うち社会人3名）、鋳造コース8名（うち社会人3名）が入学した。平成18年度は新たに第2年次用のプログラム開発を行った。平成19年度は社会人学生や金型・鋳造関係学科以外の出身者を対象とした、金型・鋳造専門科目の理解に必要な基礎知識について短期間で効率的な習得を目的とした教材を開発した。また、業務の都合等により通常の講義・実習に出席できなかった社会人学生等のための補講用プログラム開発と実習機械操作マニュアルの作成を行った。

アルプス電気においては、平成17年度に、地域中小企業への技能研修所開放を狙いとした「金型製造プロセス概要課程」のプログラムを開発したことから、平成18年度は、このプログラムを用いた研修を11月以降実施するほか、新たに「プレス金型設計概要」のプログラム開発を行った。平成19年度は「モールド金型設計課程」のカリキュラム・教材の開発を行った。

また、岩手大学大学院工学研究科の要請により、アルプス電気(株)にて平成17年度及び平成18年度に開発した「金型製造プロセス概要課程」と「プレス金型設計課程」のテキストが岩手大学に寄贈され、企業のものづくり現場で開発された教材が、大学院の教育に活かされることになった。このことは産学連携による活動の、ひとつの成果と言える。

米沢商工会議所においては、平成17年度に「戦略的生産革新コース」のプログラムを山形大学・地域企業の協力のもとに開発したことから、平成18年度はこのプログラムをもとにこの研修コースを実施した。また、平成18年度は新たに「高密度実装技術演習」等のプログラム開発を行った。平成19年度は「表面実装における国際規格の要求事項講座」と「極小サイズ・ファインピッチの表面実装講座」のプログラムを開発した。また、受講者のレベル合わせのための短期基礎習熟講座として、「高密度実装技術」「品質管理」「生産革新」の基礎講座・補助教材を開発した。

【成果品】

報告書

【調査体制】

当センターがプロジェクト管理法人となり、岩手大学や米沢商工会議所、アルプス電気などと協力しながら当事業全体を管理・運営。

【委員長・座長】

平塚 武文 (財)東北産業活性化センター コーディネーター

【事務局】(IVICT は除く)**【調査協力機関】**

国立大学法人岩手大学、米沢商工会議所、アルプス電気株式会社

【視察先・ヒアリング先など】**【委員等】(分科会等は除く)**

富澤 辰治(木村 富雄) (財)東北産業活性化センター 常務理事・事務局長

亀田 英一郎 岩手大学附属金型技術研究センター客員教授

佐々木 哲夫 岩手大学附属金型技術研究センター客員教授

多田 尚 水沢市鋳物技術交流センター所長

竹本 義明 TCT鋳造技術研究所所長

小笠原 慶 元エヌワイデータ(株)社長

赤尾 洋二 山形大学客員教授

※()は前任者

【特記事項】**【区分】**

産学連携製造中核人材育成事業